

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年3月25日				
大田区立こども発達センターわかばの家 単独通所						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	18	1	・各クラスの居室の他に、屋上やホール、多目的室等、活動に応じて利用しています。思いきり体を動かして遊ぶような場合は、クラス間で調整し、お子さんの人数を制限して、安全に遊べるよう配慮しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	16	2	常勤職員の他に、非常勤の専門職（心理、言語聴覚、作業療法、理学療法等）を配置し、チームでの支援体制をとっています。 ・お子さんの欠席状況等に応じて、クラス間で職員配置の調整をし、必要な個別対応ができるよう努めています。	・職員の法定基準以上の職員を配置していても、年度によって個別対応の必要なお子さんが複数在籍している場合もあり、今後もクラス間だけでなく、様々な協力体制を工夫していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	17	2	・生活や活動の場所、物の置き場、自分の物等、お子さんにわかりやすく見通しの持ちやすいような表示や情報伝達、提示の仕方等、視覚化、構造化を工夫しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16	3	・建物・設備の老朽化、経年劣化が進んでいますが、順次修繕し、また日常の清掃等、環境保全に努めています。 ・感染防止対策として、接触頻度の高い箇所の消毒や使用した遊具や玩具の消毒、換気等を行っています。 ・日課や活動によって、居室、ホール、個別室、屋上等、場所を移動して使い分け、活動しやすいようにしています。	・建物の老朽化に伴う修繕に関しては、大田区と連携を密に取りながら迅速に対応してまいります。 ・屋上の床面が滑りやすく、雨上がり日は活動に使えない場合がありますので、改善策を区と協議していきたいと思っています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	17	2	・様々な事業を行っているため、制限はありますが、パーティションなどで空間を仕切るなどできる工夫を行っています。	・様々な事業を行っているため、部屋の稼働率は100%の日が多くどうしても制限がある現状です。わかばの家のキャパシティにあわせた使い方を検討していきたいと思っています。
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	13	5	・引続き、記録や行事の準備等、時間のかかる作業を見直し、必要な部分への時間配分が行えるように、効率化を図っています。	・広くはなく、参画している職員に限られている為、定期的に全体の職員会議などを利用して、職員間に進捗状況などの周知を行いたいと考えています。

業 務 改 善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17	1	・自己評価に関しては実施したものを、毎年区のホームページで公開しています。また、年1回区との運営委員会にわかばの家代表として単独通所の父母の会の役員様に出席を依頼し、要望などをうかがうようにしています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	4	・職員育成面談や施設長面談を通して意見の把握に努めております。	・わかばの家は、事業が多岐にわたり、改善が進みにくい現状がありますが、事業所内、区とも協議を行いながら、少しずつでも事業内の整理や見える化を推進していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	17		今年度、第3者評価を実施しています。結果については、評価終了後に公表いたします。	今年度、第3者評価を実施いたしました。結果については、評価終了後に公表いたします。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	19		・法人として育成に主眼をおいたキャリアパスを整備し、個々の職員の育成計画を作成して計画的に研修をすすめるよう努めています。 ・OJTの強化とともに、法人内外の研修に参加する機会を設ける体制を取っています。	・日常業務に追われがちですが、引続き、必要な研修に参加できる機会を確保できるよう努めていきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17	1	4月に大田区のホームページにてプログラムの公表を行いました。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	19		・入所前の利用事業担当者等と連携しながら、ニーズや課題の客観的な把握に努めています。 ・各専門職の視点を踏まえ、アセスメントを行い、記録に残すようにしています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	18	1	・実際に利用児童に関わっているクラスの担当者が原案を作成するなど、実情に合わせた計画を作成するように努めています。	

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	19			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16	3	・基本的に、新版K式発達検査を使用しています。その他、必要に応じて言語聴覚、作業療法等の評価を実施しています。	・アセスメントツールによる情報、結果を有効に活用していくために、検査の意味や活用の仕方について、職員間や保護者との間で、正しい理解を共有していく必要があります。 ・定期的に職員向けに専門職のセラピストによる研修を取り入れていく等、引き続きそのための研修や伝達に努めています。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17	1	ガイドライン改正に付き、改定を行いました。	・今後わかりやすい計画書となるように、改善を行います。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	16	3	・クラスで終業前にコミュニケーションを取り、よく話し合っています。 ・季節の行事など、お子さんの発達に合わせて検討しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	18	1	・お子さんの状況に合わせた活動プログラムを随時検討し、必要に応じて変化させていくようにしています。 ただし、お子さんの特性によっては、あえてプログラムを固定し、見通しが持ちやすいような活動プログラムを組んでいる場合もあります。 ・お子さんが活動や遊びを選択できるような工夫をしています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	19		・基本的に、集団活動と併せて定期的に専門職による取り出しの個別指導を設定しており、それをふまえた個別支援計画を作成しています。 ・その他随時、一人ひとりの子どもの状態や必要に応じて個別活動を取り入れています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17	2	・当日支援開始前に、打ち合わせの時間を設け、その日の動きや役割分担、注意事項等について確認し、共有できるように努めています。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	17	2	・グループの職員間、専門職との振り返りの時間を設け、お子さんへの理解や支援内容について、情報共有しています。 ・打合せの時間が取れない場合には書類にて情報共有を行っています。	・今年度は特に、わかばの家全体で産休などの職員が多く、その補充がスムーズにできなかった現状から十分な打ち合わせの時間を確保しにくい状況ですが、打ち合わせの仕方や時間設定を工夫し、引き続き職員間の共通理解を図っていくよう努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	18	1		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17	1	・利用開始6か月以内にモニタリング及び、個別支援計画の見直しを行っています。 ・その他必要に応じてお子さんの状況や保護者の意向を確認し、見直しができるようにしています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	19		・同施設内にある相談支援事業所と緊密に連携し、サービス担当者会議にも必要に応じて参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	19		・保護者の了解を得たうえで、所属保育園や就学先との個別連携を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19		・保護者の了解を得たうえで、所属保育園や就学先との個別の引き継ぎを実施しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19		・保護者の了解を得たうえで、所属保育園や就学先との個別連携を行っています。	

関係機関や保護者との連携	28	(28～30は、センターのみ回答)	17	1	・大田区児童発達地域ネットワーク会議を通して、他事業所との情報交換を行っています。	・職員に対して児童発達支援地域ネットワーク会議の内容の周知などが不十分だと考えますので、職員会議などを利用して周知していきたいと考えております。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	17	1	常勤職員の他に、非常勤の専門職（心理、言語聴覚、作業療法、理学療法等）を配置し、チームでの支援体制をとっています。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	15	2	わかばの家として、相談支援事業所職員が会議に参画しています。	
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	18	1	・コロナ禍で中止しておりましたが、今年の10月より保育園との交流を再開いたしました。	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	19		<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳のやり取りを通して、日常的に情報を伝えあっています。 ・必要に応じて、電話連絡や面談を行い、保護者との共通理解を持てるよう努めています。 	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	17	2	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスごとに、定期的(月2回)に親子プログラムを実施し、親子で活動を共にする中で、子どもの理解やかかわり方、親子関係についての支援をしています。 ・その他、個別に相談に応じ具体提案対応の提案や実行のサポート等を行っています。 	
保 護	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	19		事前の説明会や、契約時の重要事項により丁寧な説明を心がけています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	19		・面談やアンケートを通して、意向を確認したうえで支援計画に記載し、支援内容に反映させております。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	19		・都度面談を行い、説明を行っています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	19		日々の連絡帳やアンケート、親子プログラム、親子参加行事等の機会を通して、親子や保護者の状況の把握に努め、必要な時に適切に相談に応じたり、支援を行えるよう心がけています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	18	1	<p>保護者主体で組織されている「父母会」の活動について、場所を提供したり、連絡帳で「父母会たより」配付する等、保護者の円滑な連携のために必要に応じて、支援や協力をしています。</p> <p>ただし現在は、きょうだい児向けのプログラムなどは取り入れることができていませんので、今後どのような形で提供していくかについては、検討を重ねていきたいと思っています。</p>	

者 へ の 説 明 等	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	18	1	日々の連絡帳やアンケート、親子プログラム、親子参加行事等の機会を通して、親子や保護者の状況の把握に努め、必要な時に適切に相談に応じたり、支援を行えるよう心がけています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	17	1	毎月の「クラスだより」やお知らせ等を配布しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	18	1	・区の個人情報保護条例、法人の個人情報保護規程等に基づき、「情報セキュリティマニュアル」を整備し、職員に周知徹底を図っています。 ・個人情報関係の書類は、必要な時以外は施錠管理し、個人情報の受け渡しについては、その都度受け渡し簿に記入しています。 ・保護者には、契約時に、守秘義務と個人情報の取扱いについて説明し、個人情報を用いる場合には、その都度利用目的を明示し、文書での同意確認を行っています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	18	1	・お子さんや保護者の個々の状況に応じて、配慮しています。お子さんにはなるべくわかりやすく見通しの持ちやすいような意思疎通や情報伝達の方法（写真や絵カード、サイン言語、手話等）を、いろいろと工夫しています。 ・外国人保護者等に対しては、必要に応じて通訳の手配をしたり、通訳タブレットを使用しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	19		・年に1回、地域の方と一緒にこどもまつりを開催しています。また、卒園式などにも地域の方をご招待しております。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	18	1	・毎月火災や地震に対応した訓練をおこなっております。	・マニュアルの周知が十分でない部分がありますので、上記同様な会議や書面を通じて周知を行います。 ・避難訓練に関しては、不審者対応の訓練を取り入れて行く必要があります。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	19			

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	19		<ul style="list-style-type: none"> ・調査票への記入を含め、事前に確認しています。 ・てんかん発作、医療的ケア等については、事前に必ず医師の指示書の提出をお願いし、看護師、担当者の聞き取りにより対応書を作成しています。保護者の同意確認を得るようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの職員が理解できるように資料が作られています。 ・しっかり確認し、職員に周知しています。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	19		<ul style="list-style-type: none"> ・医師の指示書の提出をお願いし、それに基づいて栄養士、看護師、担任等の聞き取りを行い、対応書を作成、保護者の同意・確認を得ています。 ・毎月、アレルギー面談を行い、献立表をもとに、保護者と除去材料の確認をしています。提供時には、栄養士が確認をしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの職員が理解できるように資料が作られています。 ・徹底して行っています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	19			<ul style="list-style-type: none"> ・計画書については、各種委員会と連動し、改定を行います。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	19		<ul style="list-style-type: none"> ・しおり等にて保護者の皆様に周知しております。 	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・簡素化した用紙にて書くことを習慣化し、朝の打ち合わせ時に職員間で共有するようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止委員会の中で、事例の検証や傾向等の確認を行い、再発防止対策を整えていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	19		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止や人権擁護の研修参加の機会を設け、参加した職員から、職員全体に伝達周知するようにしています。 ・「虐待防止委員会」を設置し、職員への研修を企画実施しています。 	全職員を対象に研修を実施しました。引続き、人権擁護意識を高めるとともに、支援の質の向上につなげていきたいと考えています。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	18	1	<ul style="list-style-type: none"> 契約の際、重要事項の説明の中で、基本事項として説明しています。 やむを得ず身体拘束が必要となるような場合には、支援計画及び、日々の記録に記載するようにしています。 	